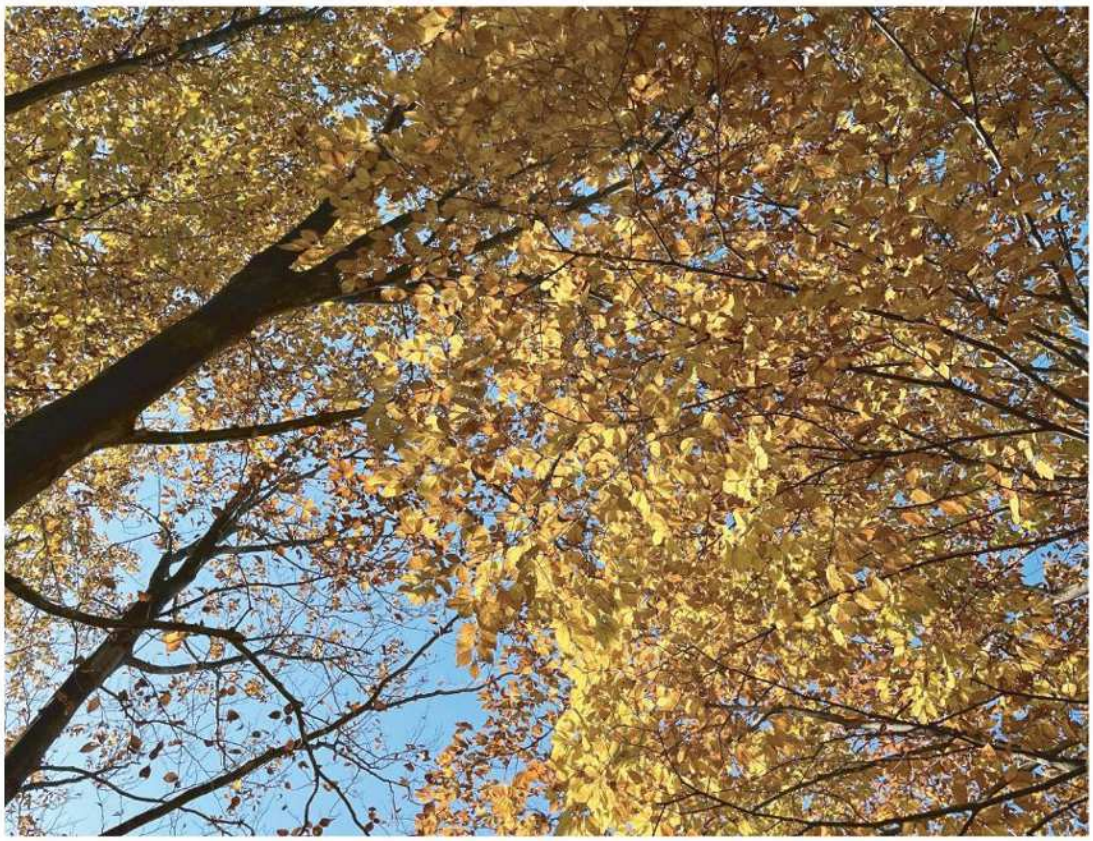
仙台市太白山自然観察の森　情報誌2026年　11月号　No.422

森のおくりもの11

ブナの黄葉



青空の少ない夏でしたが、やっと戻ってきた秋の日差しを浴びて森の木が色付き始めました。今年は木の実が豊作で、コナラやクヌギがたくさん落ちています。コナラのどんぐりは地面に落ちるとすぐに発根し、落ち葉の下で冬越しします。明るい紅葉の森で、様々な冬越し準備を探してみませんか。霜月の森で、素敵な出会いがありますように。　　【館長：濱中郁子】

森のことのは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『以毒制毒（毒を以て毒を制す）』

秋が深まり、森が段々と赤や黄色に染まっていく時季ですが、私は青が好きなので秋晴れの空、サワフタギの実やリンドウの花など、青いものに注目してしまいがちです。とある青空の日、ひらひら舞う蝶に気づきました。翅の部分が薄い水色のアサギマダラでした。アサギとは浅葱（あさぎ）色のことで青緑色の古称です。翅の内側が浅葱色をしたマダラチョウから付いた種名です。

アサギマダラは、旅をする蝶として知られています。春に南の暖地で羽化し、初夏から冷涼地へ北上して秋に南下するという生態があります。マーキング調査によって南西諸島や台湾への渡りが確認されています。和歌山県から2,500㎞離れた香港で確認された例もあるので驚きです。

アサギマダラの幼虫は、毒性がある植物を食草にしていますが、これは毒を取り込んで体を毒化し、敵から身を守る工夫です。派手な体色をしていますが、毒をもっていることを敵に知らせ襲われないようにする警戒色と思われます。

「毒を以て毒を制す」という言葉があります。中国の仏教書が由来で「悪や害を取り除くために別の悪や強い手段を利用すること」のたとえです。アサギマダラの生態にピッタリの言葉だなと思いました。アサギマダラの成虫のオスは、ヒヨドリバナなど数種の花を好んで集まりますが、これらの花の蜜には毒性の成分が含まれています。オスはこの成分からメスをおびき寄せる性フェロモンを作るので、オスが性ホルモンを分泌するためには摂取する必要があると考えられています。有毒な植物で他の生き物にはなんてことのない存在でも、アサギマダラにとっては有益で必要不可欠な存在なのです。

自然のつながりの重要性と自然には無駄なものはないことを改めて感じました。これから南に行く途中で立ち寄ってくれた時に姿を見られて幸運でした。どこまで行くのか、長い旅路の無事を祈ります。　　【レンジャー：新田隆一】







11月の生物ごよみ

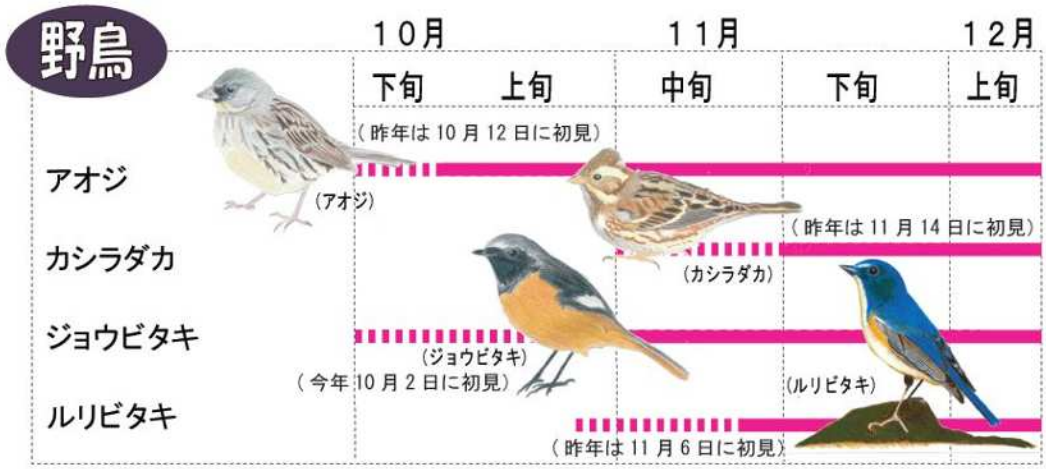
今年の仙台は、昨年と比べて猛暑日が少なく、比較的過ごしやすい日が多くありました。太白山周辺の紅葉の見頃は例年 11 月からとなりますが、今年の森はいつもと違う変化を見せています。

大きな話題は、ドングリが2021年以来となる久しぶりの豊作を迎えたことです。木々が豊かな実りをつける一方、センサーカメラに映る野生動物の姿は激減しています。特に世間で目撃数が多く話題になっているツキノワグマですが、例年 5 月から 11 月にかけて年 5、6 枚ほどの撮影されるものの、今年は 8 月に 1 度撮影されただけでほとんど写っていません。

一方では冬の訪れを告げる冬鳥の便りも届いています。今年のジョウビタキの初確認は 10 月 2 日でした。昨年の 10 月 12 日と比べると 10 日ほど早い訪れとなります。

ドングリの実りと野生動物の減少という一見矛盾するような現象は、山の生態系が持つ奥深さを物語っているようです。ドングリの豊作や野生動物の動き、そして早めの冬鳥の到来。気候や自然の恵みが生き物たちの動向にどのような影響を与えているのか、今後の変化が非常に注目されます。秋の深まりとともにそっと耳を澄ませてみてはいかがでしょうか。

【レンジャー：齋　正宏】



森の「あれこれ」



「足元の妖精たち」













じっとして、小さな花や虫を見ていると、思いがけない発見があります。ふと視線を落としたら足元の切株に栗色のきのこがありました。クリタケ（栗茸、写真①）です。慣れないと見分けが難しそうですが、黒っぽいひだ（カサの裏側）などいくつか特徴があります。

②の写真はピンクと白のツートンカラー、左上の大きなカサには白いフリルがチャームポイントのチシオタケ（血潮茸）。なかなか物騒なネーミングですが、割いた所から、まるで血のような汁がでます！

汁といえば③のチチタケ。一見普通のきのこです。ところが裏のひだに軽く触れるだけで傷つき牛乳のような乳液が出てきます（④）。まさしく“乳茸”。

⑤は数mmていどの小さくてかわいいやつ。ビョウタケ（鋲茸、⑤）。鋲って壁にポスターとか止めるやつですが、ルーペで拡大するとビビットなマンゴーイエローに釘付け！

最後はロクショウグサレキン（緑青腐菌⑥）。これも小さいけどルーペや虫メガネで観察すると別世界です。鮮やかで深いるり色はまるで宝石のようで、私は“フェルメールの青”を思い起こします。

森でじっと観察していると、さまざまな“妖精”に出逢えます。

【レンジャー：木田秀幸】

いきものの森

① 刺々しい姿の幼虫は「ルリタテハ」という蝶の幼虫で、身体の下に白い塊のようなものがありますが、実は幼虫の体を食べて育つ寄生バチの繭です。② マムシに似た銭形模様（鎖状の斑紋）ですが、実は「アオダイショウ」の子供です、一説には敵から身を守るために、毒を持つマムシに擬態していると言われます。③「トビイロツノゼミ」です、ツノゼミとありますがヨコバイに近い仲間で、植物の汁を吸います。④「クラガタノボリリュウ」というキノコだそうです、カサの部分が乗馬用の馬の鞍の形に似て、全体の姿が天に勢いよく昇っていく龍の姿に見立てられたのが名前の由来だそうです。⑤ 夜行性なのであまり姿を見せない「シロマダラ」という蛇の子供です。



朝晩冷え込む日が多くなり、森も鮮やかな秋色に染まってきました、気候的にも歩きやすい季節になりましたので、たまには森を散策してみてはいかがでしょうか。

【レンジャー：菅井　潤】

イベント＆お知らせ

◆「おはよう野鳥かんさつ」

・１２月１３日（日）　７：００ ～ ８：３０

【内　容】講師の解説と案内で野鳥を観察しながら初冬の森を歩きます

【対　象】どなたでも　２０人　（中学生以下は保護者と参加）

【申込み】Ｅメールにて　１１月３０日（月）必着（抽選）

◆「冬のいきものさがし」

・１２月１９日（土）　１０：００ ～ １２：００

【内　容】森を歩きながら野鳥や動物、虫などの生き物の痕跡や様子を観察します

【対　象】小学生以上　１０人　（中学生以下は保護者と参加）

【申込み】Ｅメールにて　１２月１０日（木）必着（抽選）

◆「野鳥のレストラン」

・１２月１日（火）～ ３月３１日（水）　９：００ ～ １６：３０

【内　容】冬季限定で野鳥のための餌台を設置しています

開館時間中、研修室の窓から餌を食べに来る様子をご覧ください



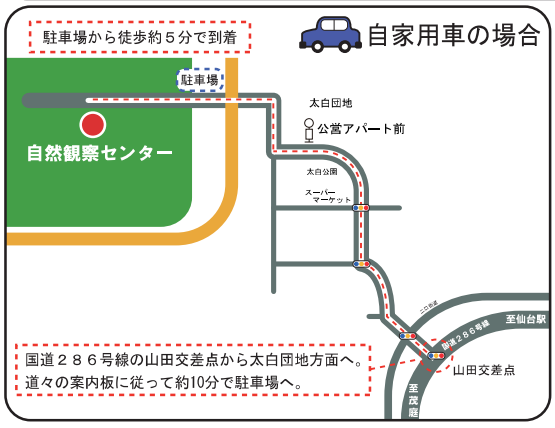
※ 申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp

自然観察の森の最新情報やイベントへのお申込み、
「森のおくりもの」バックナンバーはQRコードから

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

11月の休館日　毎週月曜日（２日，９日，１６日，２４日，３０日）

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館



宮城交通バスの場合

①	仙台駅	乗車時間 約４０分
②	長町駅東口	乗車時間 約３０分
③	八木山動物公園駅	乗車時間 約１０分

※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ケ丘経由仙台南ニュータウン行」

〔行先〕①②③「太白団地経由山田自由ケ丘車庫行」乗車
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩１５分

2026年 11月号
発 行：(公財)仙台市公園緑地協会
編 集：仙台市太白山自然観察の森　自然観察センター
〒982-0251　仙台市太白区茂庭字生出森東３６－６３
TEL：022-244-6115　FAX：022-244-6133